

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 5日から6日にかけて、高気圧が東日本付近から日本のはるか東へ移動し、前線が日本の南から沖縄・奄美付近にのびる。
- 7日は、前線が日本の南から日本の東にのびる。低気圧が沿海州から8日にかけてオホーツク海に進む。
- 8日から9日にかけて、前線が華中から日本の南にのび、9日は東シナ海で前線上に低気圧が発生する。

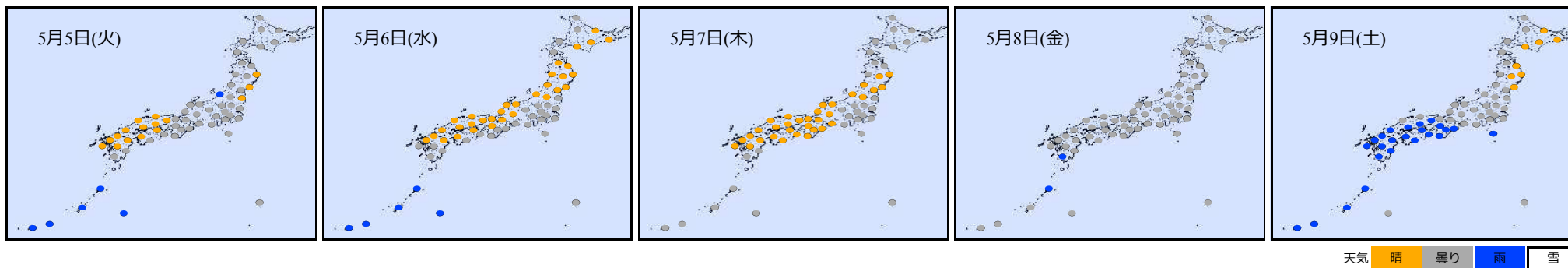
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 5日から6日にかけて、北日本では気圧の傾きが大きく風が強まり、気圧の傾きの程度によっては暴風となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

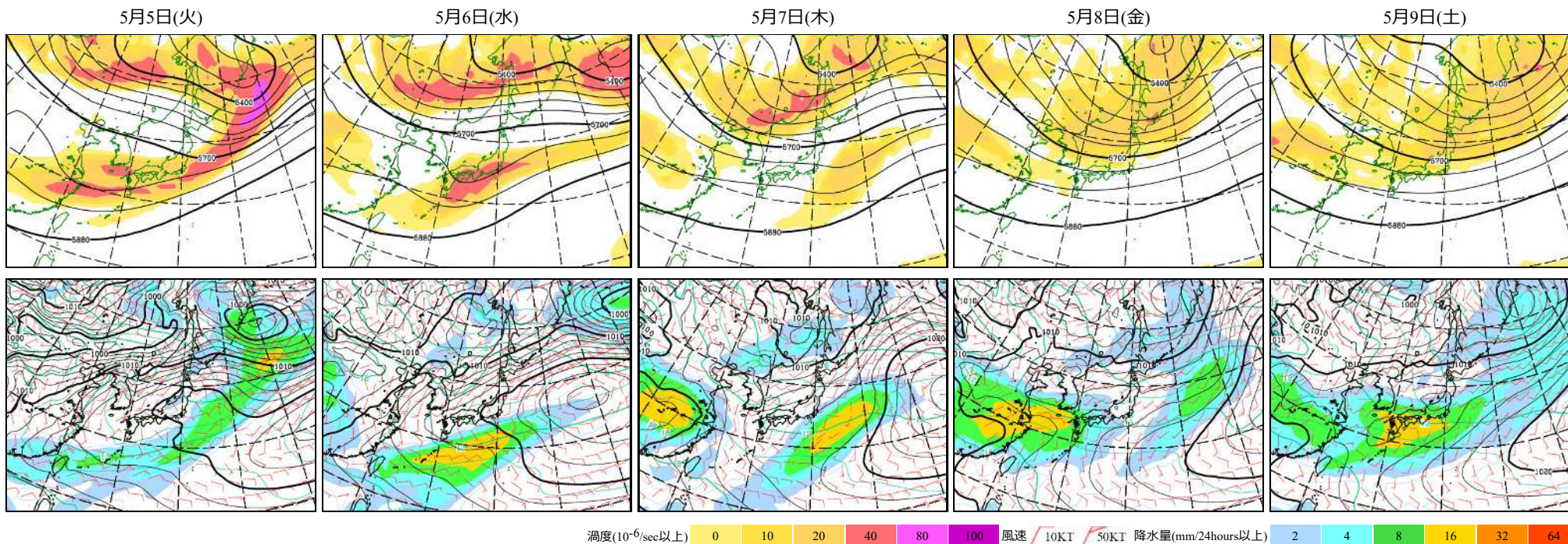
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

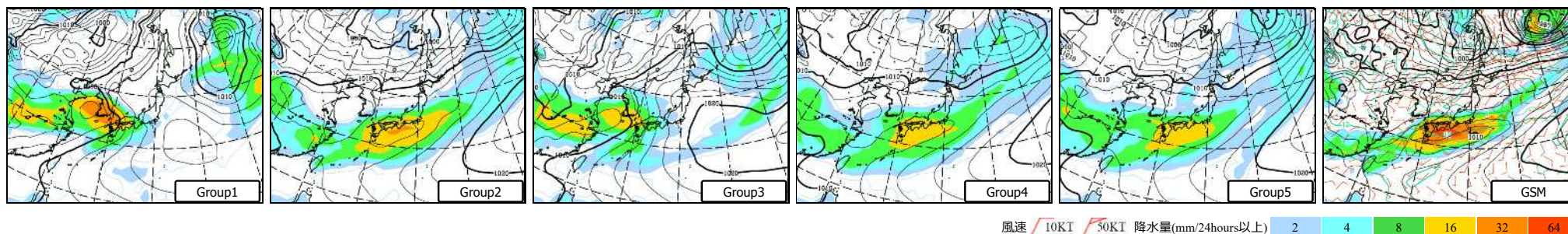


- 北日本と東日本では、曇りや晴れの日が多い。
- 西日本は、5日から7日は晴れや曇りで8日から9日は曇りや雨となる。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月9日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、5日は低気圧が千島の東で発達する傾向となり動きが遅くなった。8日から9日にかけて東シナ海から日本の南へ前線が早めにのびる傾向となった。このため、8日は西日本から沖縄・奄美で降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。